

令和7年10月19日

日立理科クラブ通信

No. 257



日立理科クラブ

「理科室のおじさん」を訪ねて2 日立市立田尻小学校

今回の「理科室のおじさんを訪ねて」は、田尻小学校（川野邊 和 校長）の田村 晃（たむら あきら）さんです。

田村さんは、福島県喜多方市の出身です。子どもの頃は、いろいろなことに興味をもち、冒険好きなお子さんでした。また、運動も得意で、地域の4つの学校の代表になったこともあるそうです。

理科クラブに入る前は、日立製作所系列の日立エンジニアリングで、情報管理部門を担当していました。元々興味をもっていたコンピュータを使った仕事をしたかったのでこの会社を選んだそうです。会社では、カーナビアプリや血液検査装置の検証などの開発に従事してきました。当時の最先端の仕事だと思います。

理科室のおじさんになって5年目です。学校では、「理科室のおじさん」と呼ばれています。理科室のおじさんになったのは、ちょうどコロナ対応の頃で、戸惑いも大きかったです。理科クラブの先輩から、実験のノウハウや教科書には載っていない実験、事故が起こらないようにするにはどうしたらよいかなどを教えてもらいました。先輩の「予備実験をやりなさい」を今でも続けています。例えば、アサガオの受粉の実験など、教科書どおりにやろうと思ってもなかなかうまくいかない実験がありますが、先輩のノウハウを、自分でうまくできるようになるまでやってみて（予備実験）、準備をするそうです。

通常は、児童の実験をサポートしたり、実験環境を整えたりしています。先生方が、準備をしやすいように整理整頓に努め、何がどこにあるのかわかりやすくしています。また、百葉箱や流水実験器など壊れた実験器具を工夫して修理し、使いやすくなるようにしています。

理科室には、ヘロンの噴水やマグデブルクの半球などおもしろい実験装置がたくさん並べられていました。また、メダカが4つの水槽に飼われていました。タニシもいて生態系ができあがっており、冬を越すこともできるようです。これらを見て、科学への興味を高めてほしいと思っているようです。

田村さんは、児童に、「なぜ？」という気持ちを持ち続けてほしいと思っています。疑問をもつと、興味を持ったり、もっと深く調べてみようとしたりするからです。また、間違えてもいいから積極的に発言してほしいと思っています。なかなか発表できない児童には、自信をもつように背中を押すこともあるそうです。

田村さんは理科クラブの授業支援グループにも所属していますが、先日、特別支援学校で授業をしたときに、子どもたちが互いにサポートしたり、話し合ったりして、協力しながら学習している様子を見て、とてもうれしかったそうです。田村さんは、児童たちに実験結果を導き出すまでの過程を大切にしてほしいと願っています。

最後に、田尻小学校のよさを聞きました。田尻小学校の児童は、とても「元気」です。中休みや昼休みには校庭に出て、先生方と楽しそうに遊んでいるとのこと。先生方が、自由な雰囲気を醸し出しているからではないかと話していました。

この日、理科室の前で会った児童たちも、とても元気のよい挨拶をしてくれました。



「理科室のおじさん」 田村晃さん



工夫された教材



展示されている科学おもちゃ



理科室の水槽